

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
23A2204	現代の教養講座Ⅲ (個・集団・社会)	2年	春	講義	2	牧野カツコ・杉本太平・ 吉良貴之
授業概要						
「自己」をテーマに自分自身を見つめ、理解することの重要性と自己認識の必要性について取り上げる(牧野/5回)。「集団」をテーマに個人と集団の関係や、集団による学習や支援活動、集団活動とリーダーの役割などについて取り上げる(杉本/5回)。「社会」をテーマに、いくつかの現代的問題を通じ、法・政治制度の側から社会と個人の関係について考える。(吉良・5回)						
到達目標(学修の成果)						
子どもと共に生活を創る保育者として身につけるべき基本的な資質の一部となる広い教養を持つ。現代社会におけるさまざまな集団や社会の特質を理解し、集団、社会の中の個人の権利と責任、役割や行動の仕方を考えることができるようになる。						
授業計画						
回	表題	学修内容				
1回	4/7 自分を見つける	自分とは何か、世界に一人しかいない自分について改めて考える。肯定的な自己概念を持ち、自己概念を高めることができる方法について理解する。(牧野)				
2回	4/14 自分の個性と将来の仕事	自分の好きなこと、こだわりを大切に、自分らしいライフスタイルを創り、好きな仕事に就くことの意義を考える。(牧野)				
3回	4/28 よりよい自分になる	自分自身の興味、個性、能力について知り、どのように伸ばすことができるかを考える。友人の興味、個性、能力について知り、他人の良いところから学べるようになる。(牧野)				
4回	5/12 心と体の健康管理	健康な心と体を保つことの大切さを知り、食事、睡眠、運動の自己管理についてチェックし、より良い方法を実践する。ストレスの原因を知り、ストレスへの対処方法を知る。(牧野)				
5回	5/19 人生80年を生きる	生涯にわたる人間の発達について知り、自分自身の将来の生活設計を考える。特に職業、結婚、親になること、などについて、具体的な目標と達成方法について考える。(牧野)				
6回	5/26 個と集団の関係	個と集団の関係性について心理学や人間関係の諸理論から学び、保育や教育の具体的な事例から「集団」の機能と効果を理解する(杉本)				
7回	6/2 グループダイナミクス	集団の関係性と個と集団の相互の作用としての力学・力動について、部活や行事などのプラス事例やいじめなどのマイナス事例から理解する(杉本)				
8回	6/9 グループワーク	保育や教育に活用できる様々なグループワークについて学習し、実際に体験をする(杉本)				
9回	6/16 集団におけるリーダー機能	集団を活性化し豊かな人間関係の場となるためのリーダーの役割機能を理解し、子どもや身近な集団内のリーダーの育成や活かし方を考える(杉本)				
10回	6/23 集団活動の実践	楽しい、活性力あるダイナミックな集団活動を体験し、それが受講者自身にどのような影響を与えたかを自己評価する。授業内で感想レポートを完成させ提出する(杉本)				
11回	6/30 市民としての個人	政治活動(選挙運動からデモまで)の実例を通じて、自己と社会をつなぐあり方を理解する。(吉良)				
12回	7/7 集団のなかの個人	学校、企業、地域コミュニティなど、集団のなかで個人がいかにか力を発揮し、いかに身を守るかを考える。(吉良)				
13回	7/14 家族・ジェンダーと個人	家族やジェンダーにかかわる法律問題を素材に、性別とのかかわりのなかで自己のあり方を理解する。(吉良)				

14回	7/21 裁判員裁判と個人	裁判員に選ばれた場合を想定し、個人が裁判にかかわることの意味と責任を理解する。(吉良)
15回	7/28 インターネットと個人	インターネットの膨大な情報のなかで「個人」はどうありうるか、プライバシーの問題を中心に理解する。(吉良)
準備学修 (授業外の自己学修)		
<p>授業で配布される資料プリントを授業前及び授業後に十分読んで理解しておく。</p> <p>日常生活の中の、個、集団、社会(法)の問題に関心を持ち、次週の内容への質問や事前準備をしておく。</p>		
成績評価の方法・基準 (%表記)		
1-5回(牧野),6-10回(杉本)11-15回(吉良)の3人の担当教員の評価を合計する。レポート30%、授業の振り返りシート20%、検討課題の準備状況20%、発表内容20%、授業への参加意欲10%		
教科書		
特に定めない		
参考書等		
毎回、毎回アクティブ・ラーニング (主体的な学び) が行えるよう、いろいろな活動を行います (牧野)		
毎回、毎回資料を配布する (杉本)		
毎回、資料配布またはスライド上映を行う。(吉良)		
履修上の注意・学修支援		
<p>3人の教員の評価の割合は同等である。15回すべての授業を履修してこの授業のねらいを達成することを期待している。一人の教員につき、2回以上の欠席をしないように注意すること。</p> <p>法律の具体的な知識は前提としない。時事問題を多く素材に用いるので、日頃から意識的にニュースに目を通しておいてほしい。(吉良)</p>		